

## V 小児科・産婦人科特化コースのプログラム

選択科	小児科特化
研修受け入れ科	小児科
研修プログラムの概要・特徴	<p>1. 概要 このプログラムは将来小児科医を目指す研修医のために特化したプログラムである。卒後臨床研修に求められる到達目標を達成しつつ、小児科の診療および小児科医となるにあたり特に有用な選択必修科目を研修する。本プログラムの小児科系研修は、小児科およびNICUにおいて研修を行う。本コースの定員は2名とする。</p> <p>2. 特徴 熊本大学病院小児科は、小児病床30床、新生児病床24床（NICU 12床、GCU 12床）を有している。小児科は血液・腫瘍、神経・筋、代謝・内分泌、腎臓、膠原病、重心、新生児分野の診療を主としている。毎週臨床カンファレンスがなされ、また各診療グループにて勉強会を開催している。NICUでは呼吸、循環、栄養管理を含めた新生児医療の現場を経験することができる。また、その後の発達フォローも外来で経験できる。また、感染症、救急医療、予防接種等については関連病院を中心に研修を行なう。 本院は日本小児科学会の専門医制度研修施設の認定を受けている。 プログラムの年間スケジュールは別紙記載の通りで、熊本大学医学部附属病院群の卒後臨床プログラムに準じており、当病院群における研修の流れに沿って無理のない研修を行うことができる。</p>
研修の目標	<p>(一般目標) 小児特有の疾患に対するプライマリケアならびに救急医療に必要な基本的診療能力に加えて、将来小児科を専攻することを前提とした小児科学各領域および新生児学領域の高度かつ専門的な内容が研修できる。</p> <p>(行動目標)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 患者-医師関係             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児、ことに乳幼児とコミュニケーションがとれる。</li> <li>2) 保護者から診断に必要な情報を的確に聴取することができる。</li> <li>3) 病児および保護者とよく話し合い、納得できる医療を実践する。</li> <li>4) 守秘義務を果たし、病児のプライバシーへの配慮ができる。</li> </ol> </li> <li>2. チーム医療             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 指導医や専門医・他医に適切なコンサルテーションができる。</li> <li>2) 同僚医師・後輩医師への教育的配慮ができる。</li> <li>3) 他職種の職員とともに、チーム医療として病児に対処できる。</li> </ol> </li> <li>3. 問題対応能力             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 指導医とともに保護者に適切に病状を説明し、療養の指導ができる。</li> <li>2) 小児診療における問題対応能力を身につける。</li> </ol> </li> <li>4. 安全管理             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児医療の安全を理解し、医療事故防止に務める。</li> <li>2) 事故発生時はマニュアルに沿って適切に行動できる。</li> <li>3) 小児病棟特有の院内感染対策を理解し、その対応ができる。</li> </ol> </li> </ol>

	<p>5. 症例提示</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児疾患の症例提示と討論ができる。</li> <li>2) 小児臨床症例に関するカンファレンスに参加する。</li> </ol> <p>6. 医療の社会性</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 病児の疾患の全体像を把握し、医療・保健・福祉への配慮ができる。</li> <li>2) 小児科領域の医の倫理や生命倫理に基づき適切に行動できる。</li> </ol> <p>(小児科において経験すべき診察法・検査・手技の実際)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 基本的な小児科診療能力 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問診および病歴の記載</li> <li>2) 小児診察法：小児および新生児の診察法</li> </ol> </li> <li>(2) 基本的な小児科臨床検査と治療 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 小児の採血、腰椎穿刺、骨髄穿刺、超音波検査、脳波、負荷試験</li> <li>2) 小児の輸液、輸血、痙攣の治療</li> <li>3) 小児、新生児の蘇生（気管挿管、人工呼吸器管理、循環管理）</li> <li>4) 小児の造血幹細胞移植、腹膜透析管理、糖尿病管理など</li> </ol> </li> </ol>
<p>研修の方略 (スケジュール等)</p>	<p>当院小児科研修においては、小児科、NICU のそれぞれを専門とする指導医（各1名）をおき、研修状況を統括する。週間スケジュールは小児科研修プログラムに同じである。</p> <p>本コースでは1年目～2年目4月までに基本的な医師としての診療能力を身につけ、小児科以外の到達目標を達成する。選択科目としては、産科、小児外科、精神科を推奨する。2年目5月以降(11ヶ月間)は、実質的な小児科医として専門医取得を想定した研修を開始する。具体的には小児科4ヶ月間、NICU 4ヶ月間、関連施設（小児救急等）3ヶ月間の研修を行なう。以上により、小児特有の疾患に対するプライマリケアならびに救急医療に必要な基本的診療能力、小児科学各領域および新生児学領域の高度かつ専門的な内容を修得する。</p> <p>また、2年目の夏までには日本小児科学会に入会し学術活動を開始する。</p> <p>○医局内の勉強会 全体抄読会（水曜日朝） 他</p> <p>○参加可能な小児科関連の学会・研究会（県内） 熊本小児科学会：年3回 熊本小児科症例検討会（PCC）：年2回（3月、9月） 熊本新生児合同カンファレンス：年2回（3,9月の第1金曜日） 他、研究会多数</p> <p>○参加可能な小児科関連の学会・研究会（全国） 日本小児科学会学術集会：年1回 その他サブスペシャリティ領域の学会多数。</p>
<p>研修の評価</p>	<p>小児科研修プログラム（必修分野）に同じ。</p>
<p>研修実施責任者</p>	<p>小児科長：中村 公俊</p>
<p>研修指導責任者 (指導医)</p>	<p>小児科：(正) 阿南 正 (副) 松本 志郎 NICU：(正) 三渕 浩（新生児学寄附講座） (副) 岩井 正憲（総合周産期母子医療センター）</p>
<p>その他特記事項</p>	<p>なし</p>